

下水道の整備状況

札幌市の下水道整備状況は、令和5年度末現在、管路延長約8,300km、水再生プラザ10カ所、ポンプ場16カ所です。また、下水処理の過程で発生する汚泥を処理するための2つのスラッジセンター、下水道管の清掃時や水再生プラザ、ポンプ場で発生する土砂やごみを処理する2つの洗浄センターなどを整備しています。

その他にも下水道管やマンホールなどを維持管理するため、2つの下水管理センターを設けています。

(R6.3現在)



下水道のあゆみ

札幌市の下水道事業は大正15年（1926年）に雨水排除を目的として整備を始め、戦後の急激な人口増加に伴い、昭和32年（1957年）から、生活環境の改善と浸水の防除を目的とした本格的な下水道整備に着手しました。

その後、札幌冬季オリンピックを契機として、快適な生活環境の確保や水環境の保全・創出のため積極的な整備を進めてきた結果、今ではほとんどの市民が下水道を利用できるようになりました。

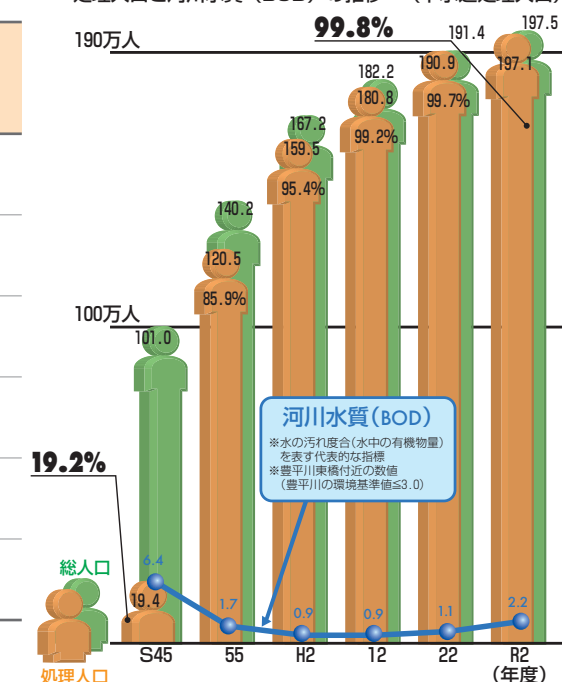
また、この間、汚濁が進行し一時は魚もすめない川となった豊平川に、昭和54年（1979年）には25年ぶりにサケが戻るなど、下水道の整備とともに河川水質の改善も着実に進みました。

さらに、処理の高度化や合流式下水道の改善などさらなる水質改善を行い、処理水を活用したせせらぎ回復や下水道資源の有効活用に努めてきました。

■下水道の整備状況

年度	区分	管路延長 (km)	処理面積 (ha)	処理能力 (千m³／日)
	昭和45年(1970年)	910	1,771	115.4
	55年(1980年)	4,170	14,638	729.0
	平成 2年(1990年)	6,754	20,602	986.8
	12年(2000年)	7,714	23,813	1,089.8
	22年(2010年)	8,155	24,626	1,173.8
	令和 2年(2020年)	8,300	24,790	1,173.8

処理人口と河川水質（BOD）の推移（下水道処理人口）



昭和54年 豊平川にサケが溯上する。



枯渇した河川のせせらぎ回復(安春川)